Ⅳ－466

観光と景観の地域に関する比較分析

正員　三浦行政

１．総説

観光と景観を比較分析することで、地域での互いが類似するところ、相違する点が明確となり、これによって各分担の役割の指標に。あるいは、両者間での影響の及ぶ範囲を最も的確に説明できる手法として、図と共に述べる。

（１）共通点と相違点

共通点としては、造形現象に伴う構成（図－１）、構図（図－２）、一般形式（図－３）上において符合し一致する。相違点としては、自然と人工の利用の度合において、観光は自然の利用に対する依存が強く、景観は人工の利用に対する依存が強い。（図－４）環境との関わり方においては、景観では密接な関連を持つのに対し、観光に関してはそれ程ではない。（図－５）地域性に対しての結合の在り方においては、観光の閉鎖型に対して景観は開放型である。（図－６）

（２）相互作用と相殺原因

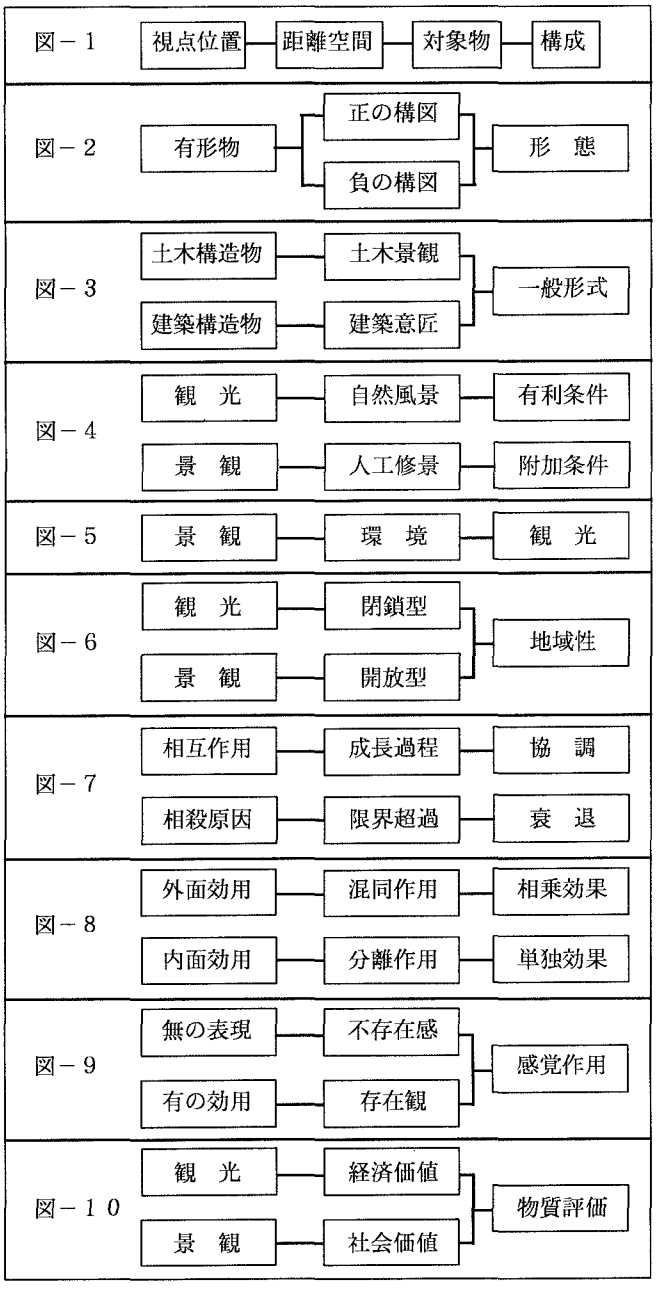
成熟過程においては、相互作用が働いて互いが協力し合えても、ある方が限界超過に達すると相殺原因が働き、これによって他の方が衰退していく。（図－７）

（３）混同作用と分離作用

外面上の効用に対して、混同されることで相乗効果が生じ、内面上の効用として、分離することで単独効果が生じる。（図－８）

（４）感覚作用と物質評価

感覚作用としては、無の表現が働く場合と、有の効用が働く場合とが生じる。（図－９）物質評価においては、景観に経済値を加味した場合を観光として受取られ観光を経済価値として直接評価するのに対し、景観は社会価値で評価する。（図－１０）



２．対比表

観光と景観の地域での比較において、各種目別に分類し表にしたものである（表－１）

表－１ 観光と景観の種目別対比表

種目	番号	観光	景観
形状	1	奇抜・斬新美が好まれる	協調・単純美を好む
	2	環境を利用する	環境に配慮する
	3	数量の多いのを好む	数量にはこだわらない
	4	建物に関する依存度が強い	土木に関する依存度が強い
	5	建物の内部様式も入る	建物の外観様式のみである
社会	6	社会性が薄い	社会性が濃い
	7	公共性が少ない	公共性が多い
	8	地域に孤立している	地域に密着している
	9	外来者指向性である	地域住民指向性である
	１０	生活的な要素が少ない	生活的な要素が多い
経済	１１	経済性が濃い	経済性が薄い
	１２	経済的な資本である	社会的な資本である
	１３	有料で資本回収を伴う	無料で資本回収を伴わない
	１４	娯楽・快楽性が多い	娯楽・快楽性が少ない
	１５	民間事業指導型である	公共事業指導型である
感覚・その他	１６	視覚・聴覚の他味覚も含む	視覚・聴覚のみである
	１７	特異性である	普遍性である
	１８	実質的でない	実質的である
	１９	観光客を対象とする	居住者が対象となる
	２０	余暇的な要素が多い	余暇的な要素が少ない

この表において、両者を交え一括した場合。また、個別の場合とを問わず行の左右を対照することで説明が得られる。

３．結論

結果として求められた資料に基づき、検索できる範囲としては、①企業の評定、②計画の定量分析、③投資額の撰定、④事業規模の想定、⑤活性化方策の整合、⑥不確定要素の削除、⑦錯誤判断の回避、⑧対策処理の迅速、⑨本質的要因の立証、⑩相互依存度の把握等が考えられるが、概念上から考察した場合、観光は人の移動に伴う取り扱いを受けるのに対し、景観は人の固定的な観点として取り扱われ、将来へ向けて思考した場合、観光と景観が現象上において共存をなしているときは、本質的に一見共通的な部分を包括し、且つ分離し難く混在するかに見えても、時代の進展の方向性から推測するといずれ完全に独立した形態で存在するものとして、比較分析する意味の重要性を強調する。